

『SDカードファミリー』

宮杉 浩

前回USBメモリは長年隆盛を誇ったフロッピーディスクに変わる大容量外部記録装置とご紹介しました。しかしフラッシュメモリを利用した外部記憶装置はUSBメモリだけではなくありません。今回はメモリーカードと総称される様々な外部記憶装置中からSDメモリーカード（Secure Digital memory card）とその仲間についてお話ししたいと思います。

まず紹介するのはSDメモリーカード。縦32mm×横24mm×厚さ2.1mmのコンパクトな形状に最大4GBの記憶容量があり、データの誤消去を防ぐライトプロテクトスイッチも備えています。その使い勝手の良さから、パソコンでの利用はもちろん、デジタルカメラや携帯音楽機器の記録媒体やテレビやDVDレコーダーなどの一般家電にも利用されています。

次に紹介するのはSDカードの縮小型で、2003年に登場したminiSDカードです。サイズが縦21.5mm×横20mm×厚さ1.4mmと更にコンパクトで、最大2GBの記憶容量があります。ライトプロテクトスイッチは装備していませんが、多種多様な機能を備えた最近の携帯電話の記憶装置として確固たる地位を築いており、皆さんにもお馴染みのメディアではないでしょうか。さらに最近ではmicroSDカードというさらにコンパクトなメディアが登場しています。サイズが縦11mm×横15mm×厚さ1mmとSDメモリーカードの約4分の1で汎用品の外部記憶メディアとしては最もコンパクトで、最大2GBの記憶容量があり、ライトプロテクトスイッチも装備しています。既にVodafoneやNTT Docomoの次世代携帯電話の記憶メディアに採用され、今後さらにシェアが伸びていくことが予想されます。

これら三つのSDカードは互換性があり、SDカードアダプタを使うことでminiSDやmicroSD規格のカードスロットがないパソコンや一般家電でもminiSDカードやmicroSDカードを利用することができます。デジタルカメラ、携帯電話、PDAなどの携帯機器が隆盛を誇る現在においてパソコンにおけるUSBメモリーと同様の地位を築いているといっても良いでしょう。また、著作権保護機能「CPRM」（Content Protection for Recordable Media）を搭載していることから、インターネットによるオンライン音楽配信の普及に一役買った事もその地位を築いた一因といえます。

さて、USBメモリーの時にも触れましたが、コンパクトで持ち運びが便利なこれら小型記憶メディアは紛失の可能性が高くなります。SDカードは直接持ち運びというより携帯機器に搭載して使うことが多いので、USBメモリーよりは紛失する危険性は低いと思えます。ですが、USBメモリーと違いコネクタピン（機器と接続する部分）が露出しているので、静電気を帯びた手で触ってしまったり、物理的に傷つけたりしてしまう危険性があります。大事なデータを無くしてしまわないためにも、取り扱いには注意するようにしてください。

それにいたしましても、一昔前までギガバイト級の記憶容量をもった記憶装置はパソコン本体のハードディスクぐらいでした。それが今では厚さ1mmほどのカードに搭載されています。改めて技術の進歩の凄さを感じさせられます。

みやすぎ ひろし（管理運営課）